

2015（平成27）年度

N I E 実 践 報 告 書



Newspaper in Education

群馬県N I E推進協議会

2015（平成27）年度

N I E 実 践 報 告 書



Newspaper in Education

群馬県N I E推進協議会

Contents

ごあいさつ	群馬県 NIE 推進協議会会長 森 谷 健	
情報収集能力と自らの考えをまとめ発表する力をつける取り組み (NIE 活動を通じて)	群馬県立西邑楽高等学校	6
「図書委員会から発信～ NIE に取り組む」	群馬県立藤岡中央高等学校	10
新聞を活用し、自ら考え、進んで表現を深める子どもの育成	高崎市立南小学校	14
NIE で言語能力の向上を図り、「社会で生きて働く力」を育む (3年次)	太田市立西中学校	18
思考力・判断力・表現力の伸長のための家庭学習の充実 ～ NIE 教育の実践を通して～	館林市立第四中学校	22
多面的に社会的事象について考え、社会的な見方や 考え方を深める子どもの育成	群馬大学教育学部附属小学校	26
社会的事象の見方や考え方を深める工夫 —新聞記事を活用したコンセプトマップの作成を通して—	甘楽町立第二中学校	30
1年から6年まで学校全体で取り組む NIE 活動	桐生市立川内小学校	34
世の中の動きに関心を持ち、社会の一員としての 自覚を高め、多面的に物事を考えられる人になろう	沼田市立沼田南中学校	38



ご あ い さ つ

群馬県NIE推進協議会会長 **森 谷 健**
(群馬大学社会情報学部教授)

群馬県NIE推進協議会では、今年度も活発な事業が展開されました。関係者皆様のご尽力の賜物と、あらためて感謝を申し上げます。

2015年度は、実践指定校として、群馬大学教育学部附属小学校、高崎市立南小学校、桐生市立川内小学校、太田市立西中学校、沼田市立沼田南中学校、館林市立第四中学校、甘楽町立第二中学校、県立藤岡中央高等学校、県立西邑楽高等学校の合計9校で熱心な取り組みをしていただきました。

小学校・中学校・高等学校で、児童生徒の発達段階に応じて、さまざまな工夫をしていただきました。新聞に親しむことや記事を読むことから、記事を読んで考えること、それを発表すること、さらには、ディベートにまで展開をしていただきました。また、「国語」だけでなく「社会」や「家庭科」の授業でも、また家庭学習でも、新聞を活用していただきました。

このような発達段階に応じ、また多様な科目で、NIE活動が展開されることは、今後も大いに期待されるものと思います。

7月30日、31日の両日にわたり秋田市で開催された第20回NIE全国大会には、実践校から3名の教員の方が参加されました。8月7日に開催された本協議会の情報交換・大会報告会では全国大会の内容を詳細に報告いただき、熱心に意見が交換されました。

今年度は、新たに、本協議会のホームページを開設することができました。検索語を「群馬県NIE推進協議会」として検索すればすぐに見つかります【<http://www.gunma-nie.org/>】。ここでは、NIEの説明や実践校の紹介、事業計画、過年度の事業報告書などを見ることができます。県民の方々に広く活動を知っていただくだけでなく、実践校増加に寄与するものと考えられます。また、実践校でご担当の先生方にとっては他校の情報を得る良い機会となると予想されます。このホームページのさらなる充実が期待されます。

新たな動きとして、新聞記事の活用だけでなく、新聞自体や新聞社、新聞記者について子どもたちに教える機会を本協議会で作れないかとのお話もいただきました。

本年度の取り組みや成果は、この報告書に詳細に書かれています。その中には、新たな展開の「芽」もあるでしょう。協議会の活動がさらに充実することが期待されるところです。

情報収集能力と自らの考えをまとめ発表する力を つける取り組み（NIE活動を通じて）

群馬県立西邑楽高等学校 教諭 田村 佳則

1 実践の概要

西邑楽高校は昨年度にNIE実践校として指定を受け、今年度は2年目を迎えた。今年度も各教員がそれぞれ独自の取り組みを継続的に実践した結果、生徒たちには「新聞を読む」という習慣が確実に浸透したのではないかと思えるようになった。

最近では新聞を配達してもらおうという家庭が減ってきたという印象がある。そのため、家で新聞を読むという習慣が薄れてきてしまったのではないかと感じられる。こうした状況に対して、学校で少しでも新聞に慣れ親しんでもらえれば、生徒たちが家庭を持ったときに、新聞を家族で読む習慣が生まれるのではないだろうか。私個人の考えとしては、「新聞が好き！」と言えるようになって欲しいと思っている。

また、今年度は特にICT機器を活用して意見を共有する試みを実践した。

2 新聞の置き場所と整理の方法

新聞は主に3年生と2年生の教室がある階にコーナーを設置した。提供していただく新聞が増えたときは1年生の廊下にもコーナーを設置した。2週間分くらいはそこに置き、古くなった新聞は職員室前の棚にまとめておいた。

古い新聞のストックはスクラップで記事を探している生徒にとっては有用であったようだ。家で新聞をとっていない生徒はここから新聞記事を選んで、図書館でコピーをしてスクラップを作っていた。

それから、生徒たちは部活の大会で入賞すると、記事をさがしてよく読んでいた。また、今年度は政治における大事件も多く、来年度選挙権を獲得するであろう2年生は、政治参加をする上で重要な情報収集となったと推察できる。



1年生の置き場は壁面も利用



本校が掲載された記事も貼っている

3 実践の内容

(1) 国語科の実践（教諭 川島勉、金子由佳）

昨年度に引き続き、「コラム演習」を実践した。これは、新聞のコラム（天声人語や編集手帳など）を読み、そこに出てきた漢字の読みや語句の意味調べを行い、最後に要約と感想（120字程度）をまとめるという課題である。

今年度は3年生が昨年度から継続で実践したため、指導の効果があらわれたと考えられる。やはり入学試験に関わるため、世の中の動きに興味・関心を持たただけでなく、就職や入学試験の面接で話す話題づくりに大きく影響したものと考えられる。また、読解力・表現力が身につく、大学入試を考える生徒の模擬試験の成績は、国語において成果が顕著であったと実感できた。大学入試においては、近年選択問題が多くなってしまったが、記事の語句の意味を捉え、しっかりと自分の意見をまとめることは、大学入試ではなくても重要な力であると考えられる。



「コラム演習」

(2) 地歴科の実践（教諭①落合李愉、川島三怜、坂木雅啓、②森田直樹）

ここでは地歴科の実践について2つの事例をとりあげたい。

①「地理A・B」での実践（教諭 落合李愉）

地理の授業では、新聞から興味ある時事問題を選び、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、生徒同士がペアをつかって感想を述べ合い、その後クラス全体で記事に対する意見を発表した。自分の意見をまとめてそれを発表することは生徒が一番苦手とするものだが、隣同士でペアをつかって、自分の意見を発表することは、意外と抵抗なく実践できていたようである。しかしながら、次の段階で、クラス全員の前で発表すると、声が小さくなってしまい全体に聞こえなくなってしまう。このような問題は、練習を重ねることで慣れてきて、活発な意見交換ができるであろうと期待している。

②「日本史B」での実践（教諭 森田直樹）…「社説を書く」

ここでは授業で扱った歴史的事象について、生徒一人ひとりが新聞記者になったつもりで「社説」を書くという課題を実践した。

まず、実際の新聞から話題となったニュースについて「社説」を一つ紹介する。実際に書かれた社説から、社会的な事象をどのように分析し、それに対する意見がどのように書かれているかを捉えさせる。そうした上で、生徒が歴史的事象を選び、「社説」を書く。自分なりに歴史的事象を分析し、客観的に意見や問題点を捉え、自分の意見をまとめて表現する。

歴史的事象は固定化されてしまった意見に流されてしまいがちだが、もう一度事実を整理して、客観的に分析した上で自分の意見をまとめるという作業は、非常に重要であろう。こうした作業は、歴史を振り返るだけでなく将来社会をどのように形成すべきかを考える上で役に立つ力となると考えられる。

(3) 「生活と福祉」（家庭科）の実践（教諭 荒井絹代）…「スクラップブックの作成と発表会」

「生活と福祉」の授業（3年選択）で週に1回、福祉・子ども・高齢者・病気などの新聞記事を配付した。それを生徒はノートに貼り、感想をまとめた。新聞記事については、新聞を家でとっていない家庭もあるので、配付という形にした。こうした課題を週1回続けていき、最終的には学期に1回ずつクラス内で発表会を行った。



3年スポーツ科での発表会の様子

発表に関して、最初は声が小さく不慣れな様子であったが、回を重ねよい発表になった。しかし、ノートを読み上げるだけの生徒が多い状況なので、今後は顔を上げて意見を述べるように指導していきたい。

【生徒の感想】

新聞を読む習慣がなかったので、社会の状況を知ることができた。最初は発表が恥ずかしかったが、徐々に慣れた。自分とは違う他の人の考えを知ることができた。

(4) 進路学習での実践 (1学年)

総合学習やLHRにおける進路学習の際、「新聞を読む (進路学習編)」を配付した。最近の新聞は大学入試や就職活動などの特集が多く、進路学習にはとても有用である。この実践も、記事の内容を要約し、感想をまとめるという簡単なものである。1時間をフルに使うというよりも、余った時間を有効に活用するという目的で作った。

反省としては、継続してできなかったこと、クラスの状況によっては配付しなかったことなどが挙げられる。



「新聞を読む (進路学習編)」



LHRでの取り組みの様子

(5) 主権者教育での実践 (1学年)

今年度、法律の改正により18歳以上の国民に選挙権が認められた。これに伴い学校でも選挙についてしっかりと学習する必要が生じた。1年生はまだ初歩的な段階ということで、文科省からの資料と併せて東京新聞のサンデー版を配布して指導を実践してみた。

来年度以降、18歳からの選挙権行使が本格化する中で、新聞を利用した主権者教育が非常にわかりやすく、役に立つものと考えられる。文科省からの資料と併せて、タイムリーで的確な指導を実践していきたい。

(6) 「現代社会」(公民科)での実践(教諭 田村佳則) … 「2015年の重大ニュースを選ぶ」

2年生の「現代社会」では年間を通じて新聞のスクラップを実践してきた。宿題として、興味を持ったニュースの新聞記事をノートに貼り、感想を書くという単純なものだが、今年度はそれらをもとにして、班別で重大ニュースを選ぶ活動を実践してみた。また、新たな試みとして、生徒がスクラップした新聞記事をスマートフォンで撮影して、プロジェクタで投影するというのも実践した。新聞記事のスクラップは小さいので、全体に発表するには有効な手段であったと感じられた(事前にスマートフォンの使用許可を生徒指導部にお願ひし、使用のマナーも指導した)。

生徒の活動		教師の活動
<p>①班別の活動(一人ひとりが発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班をつくる(1班: 4~5人) ・各自が宿題ノートを見て去年のニュースで一番気になったものを選んで発表する ・選んだ理由と感想、今後はこうなって欲しいことも述べる ・聞いている生徒は、一人ずつの講評を点数化する ・班の中で重大ニュースの第1位を選ぶ ・発表の役割を決める(全員参加) 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の予定を教える ・班のつくり方を指示する ・一人1分で発表させる ・ノートを班員に見せながら発表させる ・講評用紙に一人ずつ点数を記入させる ・第1位になったニュースを発表した人が、班別発表の中心になるよう指示をする
<p>②全体の活動(班ごとに発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の生徒全員が前に出て発表する。(スマートフォンで写真を撮って映す) ・聞いている生徒は1班ずつ講評する ・感想を班の中でまわす ・自班以外の発表でベストを選ぶ 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・重大ニュースの記事とその感想が書かれたノートを写真に撮り、スマートフォンをプロジェクタに接続させる ・講評用紙に1班ずつ点数を記入させる ・意見を共有するように指示をする ・講評用紙の点数からベストを選ばせる
<p>③班の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班の発表を聞いてどう思ったか、感想をまとめる ・班で選んだベストを発表する ・クラスにおけるベスト1を選出する 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに感想を書くように指示をする ・各班のベストを黒板に書き、票数の合計を書く。
<p>④個人の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り ・振り返りシートを提出する 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・わからなかったこと、印象に残ったこと、興味を持ったことも記入させる ・提出したら机を元に戻させる

4 実践の反省と今後の課題

スマートフォンやパソコンで情報収集が容易になった現代社会において、新聞や雑誌といった実物による情報収集手段は、生徒にとって「古い」ものなのだろうか。この2年間で感じたことは、新聞を活用することにより社会的事象に対してじっくり考え、それに対する自分の意見を的確にまとめ、それらを表現するための手段として大いに役に立つものであると強く感じた。そして、授業で習ったことと実際に社会で起きている事象を結びつけるための教材として非常に有用であると再認識した。

今後さらに新聞を授業にとり入れ、18歳から主権者として行動する生徒たちが、どのように社会を構築していくかを考えるための一つの手段となればと思う。

「図書委員会から発信～NIEに取り組む」

群馬県立藤岡中央高等学校 教諭 澁谷 瑞恵
学校司書 太田 克子

1 研究テーマ、実践の概要等

(1)研究テーマ

平成26年度より2年間 NIE 実践校の指定を受け、図書委員会を中心とした活動を考え実践してきた。指定校2年目は、「図書館に毎日届く新聞を多くの生徒が活用できるような活動」・「新聞を活かした授業づくり」の実践を目標に掲げた。

〈今年度の目標〉

- ①生徒が、新聞をとおして社会問題に自ら関心を持ち、自分の意見をまとめたり表現したりする力を養う。
- ②新聞に触れることで、言語活動の活発化を図り、物事を多面的・柔軟に捉えるための一助とする。
- ③進路を考える上で必要となる「社会での出来事」や「現代社会での問題点・課題点」を捉え自分なりの意見を持つことができるようにする。

(2)実践の概要

本校は、1学年6クラス計18クラスの文理総合学科・数理科学科からなる学校である。進学する生徒が大半を占める。進路を真剣に考え始める3年生になって小論文に取り組む生徒が殆どであるが、思考力・理解力が深化しないうちに卒業するといった感もある。社会に対する目を向けていくことの大切さを生徒達に指導したいと考え、新聞を活用した授業を行った。

2 実践の内容

(1)図書館

①図書委員会活動

ア 校外施設の見学

H27 7/31 読売新聞社 1, 2年生 図書委員10名
引率教員 2名

〔印刷の様子等を見学し、制作工程の説明を聞く。〕



読売新聞社群馬工場見学

イ 図書館活動

- ・地区研究発表大会「新聞」について 発表
- ・新聞切り抜きコンクール参加
- ・新聞クイズ(ワークシートを新聞を見ながら埋めていく)
- ・新聞を使った「としょかんワーク」(メディアリテラシー)



パワーポイントを使用しての発表
〈藤岡工業高校にて〉



新聞切り抜きコンクール



新聞切り抜きコンクール



新聞を使った「としょかんワーク」
記事の内容にぴったりの写真を選ぶ

②教育支援活動

ア 環境整備

- ・展示(新聞記事と写真ニュースと図書)

- ・ 重大ニュースの掲示
- ・ 新聞クイズ（広報紙に掲載）



図書委員会で選挙権引き下げについて話し合った。話し合いに出てきた労働三法の話提供をした。



重大ニュースの掲示

【新聞クイズ】

問1 安倍首相が 2015 年 9 月発表した「新 3 つの矢」は「強い経済」「社会保障」と、もうひとつはなんですか。

問2 2016 年 3 月に開業する北海道新幹線の最北端の駅名はなんですか。

広報紙で新聞クイズ

イ 学習支援

- ・ 新聞及びインターネット（新聞記事サイト）を提供した学習支援サービス
- ・ 大学受験小論文対策や合格後の課題のためのサービス
- ・ 授業でニュースをスピーチするためのサービス
- ・ 授業のための新聞サービス（生徒・教員対象）

(2) 各教科等での取り組み

① 国語科 〈第2学年 国語表現の授業での実践〉

ア 「新聞記事を読む」

週三時間の授業のうち、週の最初の授業で毎週提出。

学期毎にまとめて冊子にし、各自が社会の出来事を振り返る。



イ 新聞切り抜きコンクール参加作品制作

毎週提出する新聞記事

東京新聞主催の「新聞切り抜きコンクール」に出品するため、グループでテーマを絞り複数の新聞記事を読み、模造紙に貼った。記事には要約や感想をまとめて記入した。



安保法案について



TPP について



戦後70年



難民問題



参政権拡大について
*東京新聞主催
「新聞記事切り抜きコンクール」入選



安保法案

ウ 新聞作り（1年間のまとめ）

1年間新聞を使用した学習を行ったスキルを活かし、自分たちで独自の「新聞」を作成する。



ぐんま紹介新聞



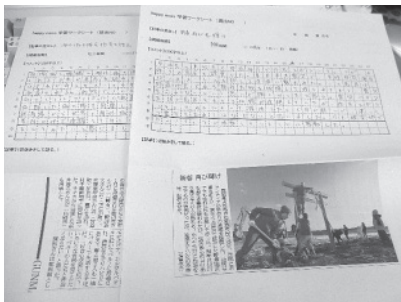
太平洋戦争新聞



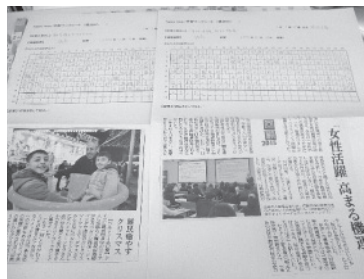
国会議員の不幸事新聞 等

エ ハッピーニュース

3学期 図書館にある新聞を読み、「ハッピーになった」記事にコメントをつける。



震災からの復興



女性の活躍 〈2年・国語表現担当教諭・飯野〉

図書館で新聞を開き、色々な記事を読んだりする活動は、生徒にとって楽しい時間となった。今後も社会に対する目を向ける力を養成するためにも新聞を使った授業を展開していきたい。

オ 新聞記事の中から「擬音語」「四字熟語」を探そう

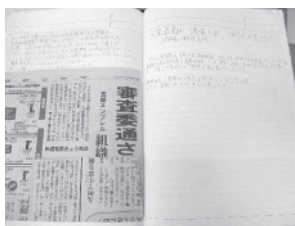
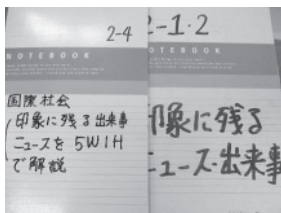
二人組になって、新聞記事の中から「オノマトペ」や「四字熟語」がどのような場面で使用されているかを見つけさせる。表現の工夫がどんな形でできるのかを学ぶ。

見落としがちな記事の中にある「オノマトペ」、スポーツ欄に多い「四字熟語」などを見つけることができた。自分が書く文章にも取り入れられたらと思う。

カ コラムを読む

新聞のコラムを読み、要約・感想をまとめる。京都書房「コラムと論説」使用

② 地歴・公民科 〈2年生 国際政治〉



一冊のノートを順番に回し記事を書く。

授業の最初に、担当者が発表する形式で、三面記事・政治・スポーツなど様々な内容を発表。



今年度は、「TPP」について新聞を使つての授業後、グループ毎に模造紙に新聞を作成。

アクティブラーニングの取り組みは好評であった。

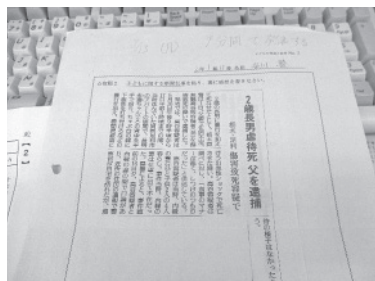
「新聞を使うことで、社会に目を向けるきっかけともなり、作業過程は楽しく活動していた。自分たちで考えたり世の中の動きを知ったりする契機となったようである」〈国際政治担当教諭・下風〉

③ 家庭科 〈2年生 発達と保育〉

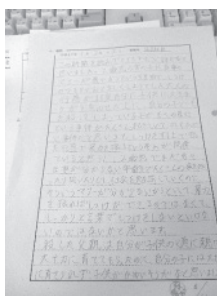
1学期 保育に関する記事の発表

- 目的 ①保育に関する記事を探し、身近なことに関心を持たせる。
- ②地元の保育関係の出来事にも興味関心を持たせ、考える力を育てる。
- ③発表形態をとることで論理的思考力を育てる。

「新聞を読んでいない生徒や新聞記事の内容を見つけられない生徒も多かった。身近なことに関心を持つことはできたのではないか。」〈発達と保育担当教諭・羽鳥〉



幼児虐待の記事



記事の感想



記事を読んだ感想

3 実践の感想と今後の活動について

2年間のNIE活動は、図書館を中心として実践してきた。1年目は図書委員会を中心として、2年目の今年度は、教科活動を中心として行うことができた。国語科、地歴・公民科、家庭科での実践をとおして、新聞記事を多面的に読む力、理解する力、まとめる力、書く力を養うことを目標に掲げた。1学期には新聞を読むことに慣れない生徒も多かったが、次第に新聞を読むことへの抵抗が減り、積極的に新聞を読むことができるようになった。と同時に時事問題を話題にする様子も見られるようになった。社会に目を向け始めたことは学習効果の一つであると言ってよいのではないだろうか。1年間の学習をとおして感じたことは、生徒たちが楽しく新聞を読み、みんなで考え意見を述べられるようになったということである。

日頃の図書館利用でも、新聞活用が定着し、調べものにも、インターネットと本だけでなく新聞を視野に入れる多角的な調べができるようになった。

今年度で実践指定校は終わりになるが、今後も授業・委員会活動に新聞を取り入れ、時事問題に目を向けさせながら生活していく姿勢を育てていけたらと考えている。

新聞を活用し、 自ら考え、進んで表現を深める子どもの育成

高崎市立南小学校 教諭 岡田 緑 前田 隼人 高橋 美加

1 実践の概要

本校児童は、話し合い活動や発表などを主体的に行うことを好み、工夫しながら取り組むことができる。こうした素地のもと、これからの学力でより必要とされる論理的に考えていく力や主体的に判断していく力を育て、さらに、児童が自ら課題を設定したり解決に向けて話し合いを行ったりしながら表現する能力を育てることができるよう、本主題を設定した。

新聞を活用することで、そこから得られる多種多様な分野の知識をもとにして、児童一人一人が進んで学び合い、また、自分の思いや考えを伝え合うことで、より深まった学習が行えると考える。

本校では、1年目の取り組みとして、全校児童に向けて新聞に親んでもらえるような場や機会の設定と新聞活用の有用性の紹介、そして高学年に向けては実際の新聞の活用方法を考えた。そこで、次のような実践を行った。

- ①第6学年 総合的な学習の時間 「NIE～新聞を活用して考えよう～」
- ②校内研修 「学び合い、伝え合う場の工夫」～国語の学力向上を目指して～
- ③図書委員会 「新聞切り抜き作品」を作ろう
- ④放送委員会 今日のニュース紹介

2 新聞の置き場所と整理方法

6年生の教室がある近くの廊下に『NIEコーナー』を作り、各種の新聞を好きな時に手にとって読むことができる場所を作った。4ヶ月間の7紙提供の他に、小学生新聞を継続的に提供していただいたり、教員が自宅で購読している新聞を1日遅れで持ってきたりして、多様な新聞が身近にある環境を作った。子どもたちは、6年生を中心に『NIEコーナー』で新聞を読んだり、新聞を切り抜いたりしながら新聞に親しむ姿が見られた。小学生新聞は低学年のクラスを中心に活用した。

また、6年生の係活動として、職員室に届く新聞を『NIEコーナー』に運び、それぞれの一面が見比べられるように並べたり、3日経った新聞は曜日ごとに分類してラックに整理したりする活動を行った。

その後の新聞は、図書室に運び一括して保管すると共に、学校図書館指導員の先生を中心として図書委員会で行う「新聞切り抜き作品」に利用した。



教室前 NIE コーナー



図書室 NIE コーナー

3 実践の内容

① 第6学年 総合的な学習の時間「NIE～新聞を活用して考えよう～」

【1学期】新聞に親しもう

(1)新聞スクラップをしよう

・最近一週間の記事の中で、自分にとって印象に残った記事を選び、その記事の内容や感想をグループ内で紹介しあう。

→自分の意見を明確にする。記事に対するいろいろな人の意見を参考にする。

・友達の見解を参考にしながら、新聞切り抜き作品をつくる。



記事を選ぶ



選んだ記事を紹介する



作品を作る

(2)新聞記事をもとに「1分間スピーチ」をしよう

・朝の会のスピーチで、自分の選んだ新聞記事を紹介し、選んだ理由とその感想について述べる。

【2学期】新聞の持つ情報を収集、選択して表現しよう

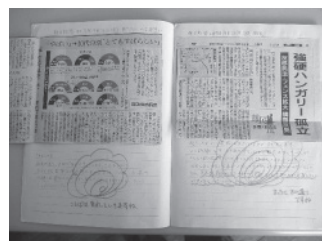
(1)スクラップノートを作ろう

・一週間に1回程度、大判ノートに新聞スクラップをする。

・3色の蛍光ペンを使って、赤色は賛同・黄色は初めて知った事・緑色は疑問や批判というように色分けをしながら、新聞記事を読んでノートに貼る。

・余白に感想を書き込む。

・テーマはフリーであったり、学習に関連したことであったり(環境・宇宙・科学…)、自分の生き方の手本になるような人物に関して(この人に学ぼう)であったりと、他教科との学習内容に結びつけて行う。



6年生スクラップノート

(2)NIE コーディネーター出前授業

・「新聞を読む」ということの意味についてのお話を聞く。

・新聞記事の切り抜き方についての注意事項を聞き、参考にする作品を見る。

・実際に切り抜き作品を作ってみる。

・今年を表す漢字一文字を想像して、ワークシートに書き込む。



お話を聞く



どんな作品にするか考える



良い作品を参考にして



作る

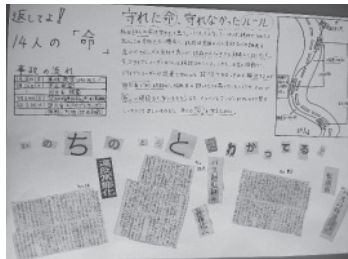
(3) 新聞記者の出前授業

・取材の最前線で働く記者の方から、取材時の思いや苦勞、工夫などの話をお聞きし、これからのNIE活動に役立てた。

【3学期】収集した情報をどのように表現したらよいか考えよう

(1) 新聞切り抜き作品を作ろう

・社会「私たちの生活と政治」の単元に合わせて、政治に関するテーマを1つ決めて、それに関する新聞記事を集め、作品を制作する。

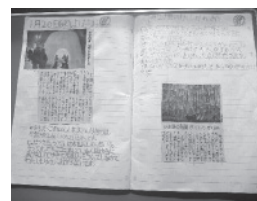


②校内研修 「学び合い、伝え合う場の工夫」～国語の学力向上を目指して～

今年度実施された学学習状況調査の結果分析から、漢字の定着を図ること、言葉の正しい使い方や内容を整理してまとめた文を書く力をつけること、辞書を日常的に活用できるなどの言語環境を整えることが国語科の重点的な取り組みとして話し合われた。そのためには、要旨を的確にとらえ、さらに話す・聞くなどの表現力を育てるために、全校で学年に応じた『新聞の活用～NIE～』への取り組み方を検討した。

(1) 1・2年生

新聞の写真を選び、A4版ノートに貼って感想を書く。朝の会で発表し合う。



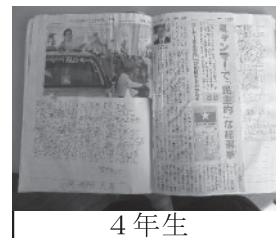
1年生

(2) 3・4年生

新聞から写真や記事を選び、A4版ノートに貼って、要旨をまとめたり感想を書いたりする。

(3) 5年生

新聞の「天声人語」を、「天声人語書き写しノート」に書き写し、要約や感想をまとめる。



4年生

(4) 6年生

新聞の「天声人語」を、「天声人語書き写しノート 学習用」に書き写し、難しい言葉を調べたり、タイトルをつけたり要約や感想をまとめたりする。朝の会で発表する。

③図書委員会 「新聞切り抜き作品」を作ろう



クラスごとに4つの班に分かれて、新聞切り抜き作品に取り組んだ。学校図書館指導員の先生とともに「戦争・原発・環境・世界遺産(富岡製糸)・尾瀬・火山・宇宙」などの中からテーマを選び、模造紙に作品を作っていた。委員会の中で発表し合ったり聞き合ったりした後、全校朝礼のときにも発表して NIE の実践について呼びかけた。3回の実践を通して、記事の選び方やまとめ方など、大いに進歩が見られた。できあがった作品を図書室前の廊下に掲示すると、図書室に来る児童はとも興味を持って、読んでいた。

④放送委員会 今日のニュース紹介

給食の放送の時間に、放送委員が「今日のニュース」を放送で読み上げる。内容は1年生にもなるべく理解して興味を持ってもらえるように、子ども新聞から放送委員会の児童が選んで放送する。

全校児童が新聞に親しみ、楽しんでもらえるように、わかりやすい放送を心掛けた。全校児童は新聞記事に興味を持って良く聞いていた。また、放送委員会の児童は、記事を選ぶため新聞を読む機会が増えたり、ニュースキャスターの気分を味わったりと、意欲的に取り組むことができた。



4 実践の感想と今後の課題

今年度より NIE の実践を行ってきたが、特に6年生の児童にとってはいつでも新聞が目に触れる環境にあり、新聞記事を抵抗なく読む習慣が付いてきていることで、毎日の会話の中に、社会事象に関する話題が増えていることを実感している。児童からは、新聞記事について話し合い活動を行うことや切り抜き作品をつくること、スクラップノートをつくることは楽しい学習の1つであったとの感想も寄せられた。

NIE コーディネーターの出前授業で今年の漢字を選ぶ時、15%以上の児童が正解の『安』を選んだ。理由は「安保法案」を指摘するなど、その他の児童の回答や学習の様子を含めてコーディネーターの先生が驚くほど、社会的な関心が高く、新聞に対する意欲も高まっていることがうかがえた。

これからの学習では、児童が話し合いや発表などを通して主体的に学ぶ「アクティブラーニング」がより一層重要となる。授業で児童が課題を設定し、解決に向けて話し合い、表現することの必要性が高まる中、NIE を実践することはこれからの学力を育てていくことに大きくつながる。

来年度も、委員会や研修での取り組みは継続しながら、各学年に応じた内容を工夫して、低学年から高学年まで全校で、NIE に取り組んでいきたい。

NIEで言語能力の向上を図り、 「社会で生きて働く力」を育む（3年次）

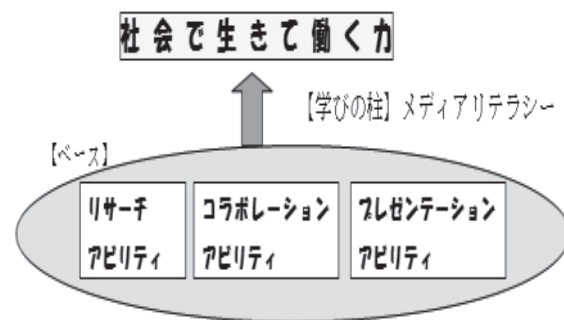
太田市立西中学校 松橋美智子

1 実践の概要

生徒たちは、現代の知識基盤社会の急速な情報化の進展の中で、膨大な情報を素早く正確に判断し処理する能力や自分の考えや主張を的確にまとめて情報として発信していく能力が求められている。また、3年生となり、いよいよ進路選択・決定の年となった生徒たちにとって、メディアが形作る「現実」をクリティカルに読み解き、より広い視野を持ち、社会のあり方と自分自身の将来とを照らし合わせながら「どのように生きたいか」を具体的に考えていくことがより現実性を持ったものになった。

NIE活動の実践3年目となった今年度は、こうした生徒たちの状況を踏まえながら、昨年度までの活動を踏襲し、より深化させるよう心掛けた。

中心は国語科の教科指導だが、道徳や総合的な学習の時間にも取り入れており、「リサーチアビリティ（情報の収集、情報選択活用能力）」「コラボレーションアビリティ（グループで学び合い、相互に啓発する力→人間関係・社会関係形成能力）」「プレゼンテーションアビリティ（自分の意見を整理し、わかりやすく発表する力→言語活動の充実 人間関係・社会関係形成能力）」という三つの教科横断的な「学習力」を「ベース」に、言語活動を活発化し、言語能力を高め、「メディアリテラシー（情報を精査し、時代を読み解く力）」のスキルを学び、自分と社会とのつながりを考えさせることによって「社会で生きて働く力」が身に付くように努めた。



2 新聞の置き場所と整理の方法

本校では、新聞店のご好意で読売新聞が毎朝全クラス分（15部）届くため、生徒玄関に「新聞入れ」を設置し、各クラスの報道委員が登校時に自分のクラスに1部ずつ新聞を持っていき「NIE新聞ラック」に置くため、全校生徒がいつでも自由に教室で新聞が読めるようになっている。また、上毛新聞・東京新聞・産経新聞・毎日新聞・朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞の7紙を提供して頂いているため、各紙の一面を比較できるように、毎朝、報道委員の新聞当番が生徒玄関に掲示している。

これにより、登校時に全校生徒が自然に朝刊紙面の比較ができるため、各紙の記事の取り上げ方や見出しのつけ方の違いにも気づき、関心を高めるのに効果的であった。

3 実践内容

（1）道徳における実践

- ① 主題名 心の平和を求めて4-(10) 資料名「命みつめて」出典「ヒロシマのぼら」原田東岷作
- ② ねらい 戦争の悲惨さについて深く考え、再び過ちを犯すことなく、世界の平和と人類の幸福を願う心情を養う
- ③ ねらいとする道徳的価値について

戦後70年の今年、多くのメディアで戦争や原爆、集団的自衛権等が取り上げられおり、関心を持つ生徒も少なくない。国際化が進むなかで二度と戦争の悲劇を繰り返さないよう生徒一人ひとりが平和について考えることには大きな意義がある。と同時に、一個の人間として平和を保つにはどう生きたらよいかを考えさせることが大切である。 略

④指導の工夫

- ・事前に戦争に関する新聞記事をスクラップさせ、関心を高めておく。
- ・「よみうり寸評」（読売新聞2015. 8. 15）のワークシートや原爆搭載の島「テニアン島」についての教師の簡単な現状レポート（2014. 8. 11～15）を読ませ、関心を高めておく。また、可能な範囲で身近な人から戦争体験を聞いておくように働きかける。

⑤準備 参考資料 「朝日新聞社 教育特集『知る原爆』」

⑥展開

過程	学習活動	発問と予想される児童・生徒の反応 ○基本発問 ◎中心発問 ☆補助発問	指導上の留意点
導入 15分	1, 戦争や原爆について知っていることを発表する。 2, 参考資料「知る原爆」を参照し、現在の状況をつかむ	○身近な人から戦争時代の体験を聞いたことがありますか。 ○戦後70年という今年は様々なメディアが戦争や原爆を取り上げていますが、戦争や原爆についてどう思いますか。 ○参考資料の2014年の報告書資料から、どんなことが分かりますか。 ・現在でも世界には約1万6000発の核弾頭がある。 ・インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮等、核拡散防止条約に参加しない国がある。 ・アフリカやアフガニスタンの民族紛争などがある。	・現在でも世界には核弾頭があり現実に今でも戦争で苦しんでいる人々がいることに気づかせる
展開 20分	3 「命見つめて」を読んで話し合う	○老婦人はどうして日本と日本人を憎むことを生きがいにならなければならなかったのだろうか ○老婦人が日本にやってきたのはどういう理由からだったのだろうか。 ○広島に来て、天地がひっくり返るほど驚いたのはどうしてだろうか ☆「許すということがその人自身を幸福にする」とはどういうだろうか ◎どのような気持ちから老婦人は「あなたたちのことは忘れません」といって日本を去ったのだろうか ・自分は不幸な人間だと思って生きてきた愚かさを反省し、平和のために意欲的に生きているあなたたちを忘れずに、新しい気持ちで生きていきたい。 ・人間として最高の美德を教えてくれた人々に感謝し、幸福感に包まれた気持ちでかえることの充実した喜びがあったから。	・憎しみが生きる力とならざるを得ない心境を理解すると共に、戦争の痛手がいかに人の人生を狂わすかをかんがえさせる ・自分の納得できない人生をもう一度見つめ直そうとする心の表れを感じ取らせるようにする ・憎しみの感情が崩れていく要因について考えさせる ・小人数の話し合いにより考えを深められるようにする。不活発な班には、「幸福感に包まれて広島を去る老婦人は何を感じ取ったのだろうか」という補助発問を行い、考えが深まるよう支援する ・また、許すことに固執することなく、意欲的に平和な世界の実現に向けて活躍する人々に共感している部分にも焦点を当て、平和を求めることの大切さについても考えるよう助言する

①新聞スクラップ活動

「コラム調べ」と「私論・短論 100 字コラム・200 字コラム」、自分の興味関心を持った記事について解説する「5 分間ニュースキャスター」と「1 分間ニュースプレゼン」等は、今年度も常時活動として行った。その成果が実り、「いっしょに読もう新聞コンクール」や「新聞感想文コンクール」では「学校奨励賞」をいただき、さらに多くの生徒が「最優秀賞」を含めてさまざまな賞を受賞することができ、自信を持つことによって、一層意欲が向上した。



②「新聞の社説の比較」と「社説に対する意見文を書く」活動

2社の社説を比較し、筆者（新聞社）の意図や内容の特徴、語句や表現の特徴を評価するために、「自分たちが編集長なら、どちらの記事を採用するか」という課題を設定してグループで話し合わせた。社説は、それぞれの新聞社の主張が表れており、主張によって、取り上げる事柄や取り上げ方、語句や表現が違ってくるところを理解させることができた。

また、自分の意見をもつことが大事であることから、自分が選んだ社説に対して「自分はそう思う、思わないを明確にした意見文を書く活動」を行った。社説を活用することで世の中の出来事に関心を持たせることができる。と同時に社説の主張を支える根拠について、各自が自分自身の意見を述べるため、説得力のある文章を書く力の伸長を図ることができたのではないと思う。

(3) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間は、「リサーチアビリティ」「プレゼンテーションアビリティ」に重きを置き、ゲストティーチャー等にはがき新聞で感謝の気持ちを伝える「礼状のはがき新聞」製作や奈良・京都への修学旅行で学んだことをまとめる「学習新聞」等、新聞製作活動を行った。

< 租税教室 礼状のはがき新聞 >

< 修学旅行の学習新聞 >



4 成果

やり尽くせなかったことや不十分だったことも多々あるが、生徒たちは異口同音に「NIEに取り組んだことで視野が広がり、世の中の動きに敏感になった。新聞の面白さだけでなく、大切さにも気がつくことができたし、自分の成長にもなった。」と感謝の言葉を口にして卒業していった。保護者からも「NIEは有益な活動である」と好評を得ることができた。

思考力・判断力・表現力の伸長のための家庭学習の充実

～ NIE教育の実践を通して～

館林市立第四中学校 教諭 三木 貴博

I 実践の概要・テーマ・仮説

1 実践の概要

本校は日本新聞教育文化財団の NIE 実践指定校となり、1 年目の取組となった。全国学力・学習状況調査の結果から、本県の子どもたちは、①考えたことを表現する力や日常生活と学習を結び付ける力が低いことが、また、本校では、同調査と学校評価から、②目的に応じて必要な情報を文章から読み取れず、思考力や表現力が低下していること、③家庭での勉強時間が少なく、自分で計画を立てて勉強に取り組んだり、宿題に取り組んだり、授業の復習に取り組む生徒の割合が低いこと、④1日にテレビゲームや携帯、スマートフォンに費やす時間が長いこと、が課題として明らかになった。

これらを受けて、本実践では、子どもたちの学力向上のために「生徒が主体的に学ぶこと」、「書く場面において、思考力・判断力・表現力を育成すること」、「教員の指導力の向上を図ること」を目的とすることにした。

本校で行う NIE 教育は、新聞記事を活用し、その内容を読み取り、その内容に対する自分の考えを文章にして表現する手法をとる。新聞には日常生活を通して起こる事件や話題が豊富に掲載されている。このことから NIE 教育を通して、①②の課題解決に迫れると考える。また、課題は週末の家庭学習として課すことにしているため、③④の課題解決にも迫れると考える。

2 実践のテーマ

家庭学習の課題に新聞記事の読解や要約を取り入れ、その内容に対して書く視点を明確にした課題作文に取り組ませることで、家庭学習の習慣化を図ると共に、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。

3 実践の仮説

- (1)身近な話題が豊富な新聞記事を活用することで、日常生活と学習を結び付ける力が身に付くであろう。
- (2)新聞記事の読解や要約を行わせることで、目的に応じて必要な情報を文章から読み取る力が身に付くであろう。
- (3)NIE の課題を家庭学習とし、それらの配付、回収、添削、掲示を全校の共通理解のもと、全職員で協力して行うことで、家庭学習の習慣化が図られ、家庭での学習時間の増加が期待されるであろう。
- (4)家庭学習の習慣化や学習時間の増加が図られることで、テレビゲームや携帯、スマートフォン等に費やす時間の減少が図られるであろう。
- (5)全教師が協力し、全生徒に課題に取り組ませることで、生徒の思考力・判断力・表現力の向上が図られるとともに、教師の指導力の向上が図られるであろう。

II 新聞の置き場所と整理の方法

置き場：生徒玄関前に机を置き、毎日届く朝刊4誌を並べ、いつでも誰でも自由に新聞を手にして読めるように掲示する。

管理：職員が毎朝掲示する。



III 実践の内容

1 新聞プリントの配慮事項

- ・新聞プリントで用いる記事は、生徒にとって興味・関心があると思われるものを意図的に選び、新聞を普段から読み慣れていなくても取り組みやすくする。「図1参照」
- ・本活動が、群馬県の高校入試前期の対策にもなっているということを意識させ、「未来の自分は今の自分がつくる」という目的意識をもたせて、取り組ませる。
- ・新聞プリントを用いた本校の取組については、保護者にも紹介し、新聞を読む習慣作りと考える力や表現する力の伸長を、家庭と連携して行っていく。



図1 毎週1枚、全校生徒に課した新聞プリントの一例

2 具体的な取組

記事の内容を早く正確に理解させ、新聞を読むことに対しての抵抗を少なくするため、以下の方法で取り組ませた。

- ①新聞を読む順序「写真→見出し→前文（リード文）→本文（事実・意見）」の指導を行う。
- ②記事の中で大切だと思われる箇所にラインを引かせ、5W1Hに気を付けて内容を読解させる。
- ③記事の内容を短くまとめて書かせたり、見出しを11文字以内で付けさせたりして、内容の要約や概説をさせる。
- ④記事から解答を書き抜かせたり、選ばせたりする。
- ⑤記事について自分はどう思うか、何を感じるか等の意見や感想を書かせる。特に、新聞記事に関係した群馬県の高校入試前期の過去問題を提示し、記事と関連させる。
- ⑥プリントの裏面に作文を書くための手だてを提示し、作文を苦手とする生徒でも読むだけで理解できるようにする。具体的には、「書く材料の簡単な集め方、接続詞

を用いた順序立ての方法、事実と感想・意見の区別、敬体と常体の文末の違い、読み手を意識した書き出しであるか、序論－本論－結論となる段落構成であるか、頭括型－尾括型－双括型のどれで自分の考えを伝えるか、モデル文の提示」などである。

- ⑦土日の家庭学習の充実が図れるように、金曜日の帰りの会で新聞プリントを配付して月曜日の朝に回収し、推敲や訂正、コメントを書き込み、廊下に貼ったフォルダに入れて、誰でも読めるように掲示する。「図2参照」



図2 全クラスの廊下に掲示された新聞プリント

- ⑧NIE 実践指定校との情報交換や、読売新聞 NIE 事務局が主催する勉強会への参加を通して、実践的な新聞活用の取組事例を学び、新聞プリントの改善・改良を行う。

3 実践の結果

- ①記事に書かれている事柄を概説する力が身についた。
- ②事柄について自分はどう思うか、何を感じるか等の意見や感想を表現できるようになった。
- ③難解な漢字は、前後の文章から類推して読み進める力が身に付いた。「図3参照」
- ④読み取った記事の内容と関連させた作文を書くことができるようになった。
- ⑤将来の自分のために、前期試験で力を出せるように、苦手な作文に取り組もうとする生徒が増えた。
- ⑥作文の書き方が分かり、段落構成を考え、読み手を意識した作文を書けるようになった。「図4参照」

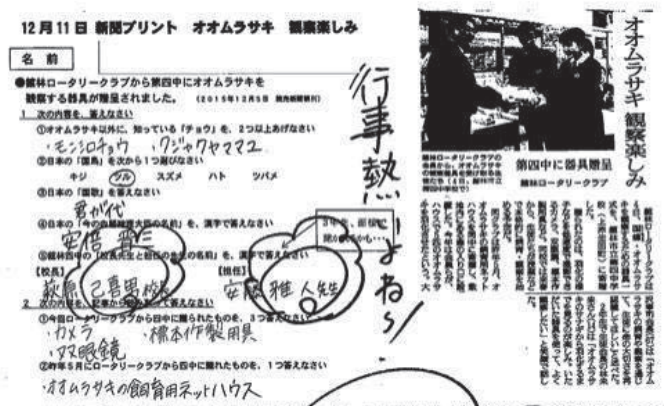


図3 生徒が記事の読解や要約を行った新聞プリント

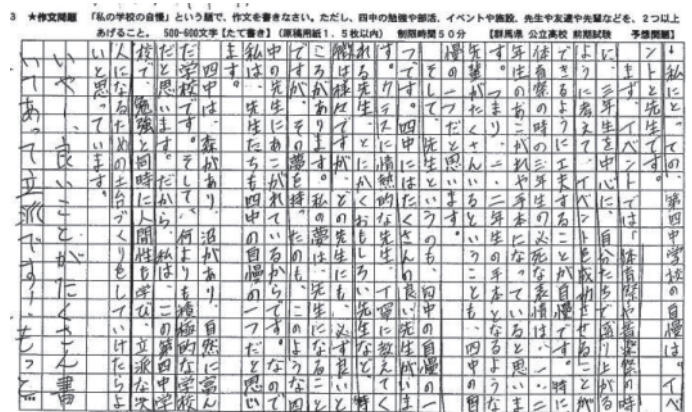


図4 生徒が書いた課題作文の一例

【新聞アンケート結果】

- ①「社会事象への関心が高まった」と感じる生徒が、1年生 72%、2年生 68%、3年生 82%に達した。
- ②自分の考えを作文で表現できるようになった」と感じる生徒が、1年生 70%、2年生 74%、3年生 85%に達した。
- ③「この先の入試対策に役立つ」と感じる生徒が、1年生 91%、2年生 96%、3年生 95%に達した。
- ④1年生 84%、2年生 77%、3年生 88%が新聞プリントに積極的に取り組んだ。
- ⑤「新聞プリントが学習習慣の確立に役立った」と感じる生徒が、1年生 64%、2年

生 52%、3年生 70%であった。

【新聞アンケートの生徒自由記述】

- ・毎週、新聞プリントの宿題が出ることで、家でも新聞を全ページ見るようになった。(3年男)
- ・新聞プリントのおかげで、新聞やテレビのニュースに興味をもち、世の中の出来事や社会の動きが分かるようになった。(2年男)
- ・新聞なんて難しくないと感じるようになり、新聞から情報を読み取るのが楽しくなった。(1年女)
- ・ニュースの内容が分かるようになり、食事中などに父親とニュースについて議論するようになった。(1年男)
- ・家では新聞をとってないので、学校に届く新聞を毎日読むようになり、よい情報源になった。(3年男)
- ・国語のテストで長文が出たときに、要点を見つけられるようになった。(3年男)
- ・新聞の記事を早く読み取れるようになり、前よりも国語の読解問題が得意になった。(3年女)
- ・小学校の頃は作文が苦手だったけど、新聞プリントのおかげで、今では当たり前のように、作文をすらすら書けるようになった。(1年男)
- ・次の作文のお題は何かと、毎回楽しみにになった。(2年女)
- ・新聞プリントは、私が唯一自分の意見や考えを書ける場なので、私の書いた文を友達が読んでいると考えると、書くのが楽しくなった。(2年男)
- ・今では楽しく国語の勉強ができていますし、国語の中間テストの作文問題で点数が上がった。(3年男)
- ・入試の作文問題がどのようなものかが分かり、入試に役立つと思う。(2年女)
- ・高校入試前期に向けてのよい練習になっていると思います。入試、頑張れる気がします。(3年女)

IV 実践の成果と今後の課題

【成果】

- 新聞記事の読解や要約、記事に対する自分の考えを書かせたことにより、自分の考えをまとめることができるようになったことで、日常生活と学習を結び付ける力や、目的に応じて必要な情報を文章から読み取る力が向上した。
- 工夫して作文を書くための手だてを与えながら、新聞記事に関する課題作文に取り組みさせたことにより、伝えたい事柄を明確にした文章構成で表現できるようになり、生徒の思考力・判断力・表現力の向上や、教師の指導力の向上につながった。
- 全校一致の共通理解のもとで、新聞プリントに取り組んだことにより、主体的に家庭学習へ取り組むことができるようになり、家庭学習の習慣化や学習時間の増加につながった。

【課題】

- 新聞購読している生徒が少なく、新聞を手にとったり読んだりする習慣がほとんどないため、全教室へ新聞が毎朝届くことを実現させ、新聞のある環境を整えていきたい。
- 生徒に読ませたい事件や、高校入試に関わる内容の記事を全教職員で選び、意図的・計画的に新聞プリントを作成したい。
- 学校規模でNIE教育に取り組み、道徳や各教科等で新聞を用いた授業公開などを積極的に行っていきたい。

多面的に社会的事象について考え、社会的な見方や考え方を深める子どもの育成

群馬大学教育学部附属小学校 教諭 谷田部喜博 櫻澤 直明

1 研究主題及び実践概要

社会科では、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことが求められている。そのためには、子どもたちが社会的事象に関心をもって追究し、問題を把握・解決する力や価値判断する力を働かせ、社会生活への理解を深めるとともに、社会との関わり方やこれから目指すべきよりよい社会について考えることが大切である。このような学習を繰り返した子どもは、身に付けた自らの社会的な見方や考え方を基に、これからの社会に対してよりよく関わっていくことができるようになると思う。以上のことから、「多面的に社会的事象について考え、社会的な見方や考え方を深める子どもの育成」を研究主題とした。

そこで、本年度、研究主題に迫るために時事問題を取り上げた単元を構想し、単元の学習計画の中に新聞記事の活用を位置付け、授業実践を行った。新聞記事は、「まとめる」過程における「価値判断を促すための社会的事象との出会い」の工夫との一助として位置付けることとした。なお、授業実践の時期は、時事的な内容が大きく関わる公民的分野を学習対象とするため、第6学年の1月とした。

2 実践の内容

【第6学年 「わたしたちの生活と政治」における授業実践】

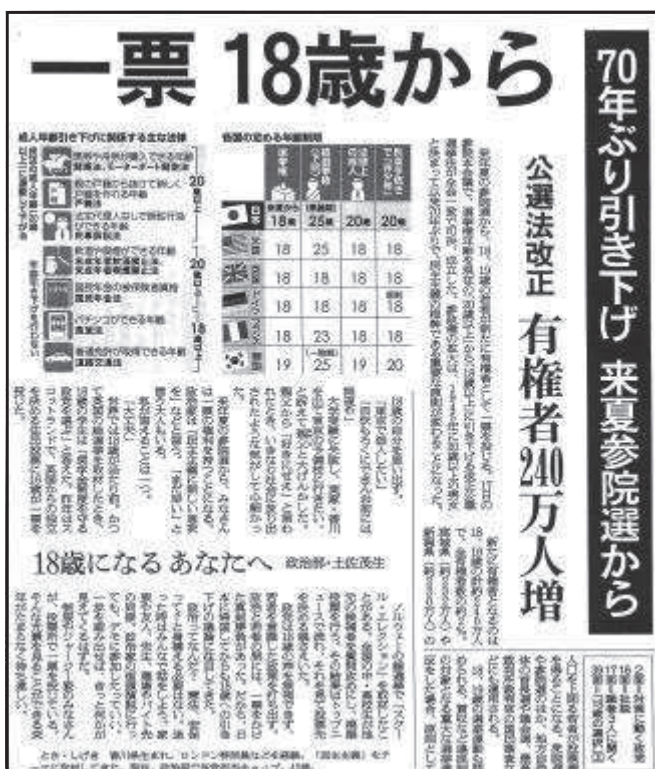
本小単元では、自分たちの生活と政治との関連を考え、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。そのため、市民の願いによる公共施設の完成と地方自治体の働き、議員の選挙、国会や内閣、裁判所の働きなどを調べる対象として以下のように単元を構想した。

指導計画（全10時間）

目標	地方公共団体や国の政治の働きと国民生活との関わりを考え、政治は国民生活の安定や向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。	
評価 規 準	(1) 地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち意欲的に調べたり、政治の働きと国民生活との関わりについて考えようとしていたりしている。 (2) 地方公共団体や国の政治の働きについて課題や予想、学習計画を考えたり、政治の働きと国民生活とを関連させて考えたりして表現している。 (3) 地方公共団体や国の政治の働きについて、資料やインターネットを活用して必要な情報を集め、調べたことをまとめている。 (4) 政治は国民生活の安定や向上を図るために大切な働きをしていることや国民一人一人が積極的に政治参加することの大切さを理解する。	
過程	時間	学 習 活 動（ <u> </u> は新聞記事活用の実践場面）
課題を つかむ	1	○前橋市民の願いや身の回りの公共施設の資料などから疑問点や調べたいことを考え、共通課題「市民の願いは前橋市によって、どのように実現されるのだろうか」をつかむ。
	1	○公共施設の建設に関わる資料から、地方公共団体の政治の働きを予想し、学習計画を立てる。
進捗を 追 進	2	○地方公共団体の政治の働きについて調べる。
	1	○調べたことを基に、市民の願いを実現する地方公共団体の政治の働きについてまとめる。
	1	○自分たちの生活や地方公共団体と関わりのある国の政治について、疑問点や調べたいことを考えて、新たな課題「わたしたちの生活にとって、国の政治はどのような働きをしているのだろうか」をつかみ、学習計画を立てる。
	2	○国の政治の働きについて調べる。
まとめる	1	○調べたことを基に、自分たちの生活や地方公共団体と関わりのある国の政治の働きについて話し合う。
	1	○選挙の投票率低下の問題と18歳選挙権の効果について話し合い、課題「18歳選挙権になって投票率は変わるか」を考え、政治参加に対する自分の考えをもったり、政治と自分たちの関わりを感想にまとめたりする。

本單元において、子どもたちが自分たちの生活と政治との関連について考えるうえで、自らのよりよい生活を目指し、これからの選挙や有権者のあり方について話し合うことは、社会の一員として未来を担う子どもたちにとって価値あることだと考える。そこで、本単元の「まとめる」過程では、子どもたち自身も含めた国民一人一人が政治への関心をもつことの大切さについて考えられるように、投票率低下の問題と18歳選挙権の効果についての話し合い活動を設定した。

本時においては、次の2つの新聞記事を提示資料として活用し、授業実践を行うこととした。<18歳選挙権の可決を報じる新聞記事>(左下)については、<導入>において子どもたちの18歳選挙権に関する既存の知識を共有化できるように、提示することとした。また、<選挙権を得る10代の思いを聞いた新聞記事>(右下)については、<展開>において子どもたちが課題「18歳選挙権になって投票率は変わるか」について意見を交流した後に、政治参加に対する自分の考えを深められるように、配布することとした。以下は本時の授業実践である。



<18歳選挙権の可決を報じる新聞記事>



<選挙権を得る10代の思いを聞いた新聞記事>

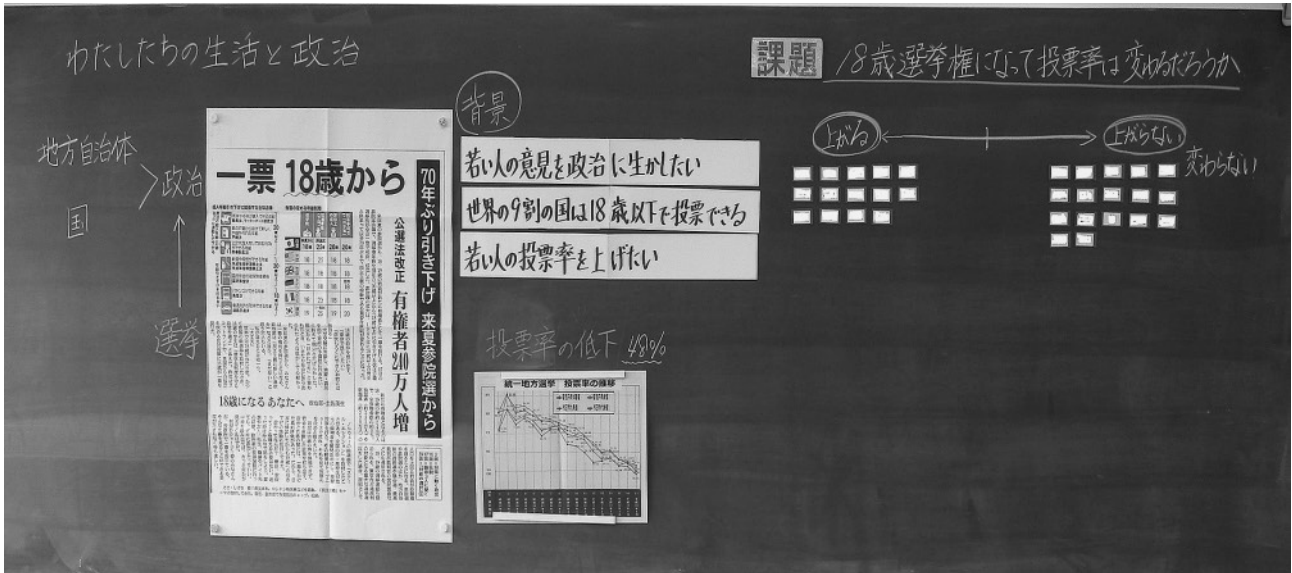
【導入】

子どもたちは、まず、これまでの学習を振り返り、国や地方自治体の政治と国民・市民の大きな関わりとして選挙があることを確認した。次に、18歳選挙権の可決を報じる新聞記事が新聞記事が提示されると、その記事の内容に詳しい子どもたちから選挙権年齢を引き下げた政府のねらいについてつぶやく姿が見られた。そして、選挙権年齢を引き下げた理由について、「若い人の意見を政治に生かしたいこと」「世界の9割の国は18歳以下で投票できること」「若い人の投票率を上げたいこと」であることを知った。その後、教師から提示された投票率の低下を示すグラフを読み取り、平成23年の統一地方選挙では投票率が50%を下回っていた事実を知り、子どもたちからは驚きの声があがった。教師が「選挙権を18歳以上に引き下げることで若い人の投票率は上がると思いますか」と問いかけると、子どもたちの意見は「上がると思う」「上がらない(変わらない)と思う」の2つに大き

く別れた。そして、課題「18歳選挙権になって投票率は変わるか」をつかんだ。

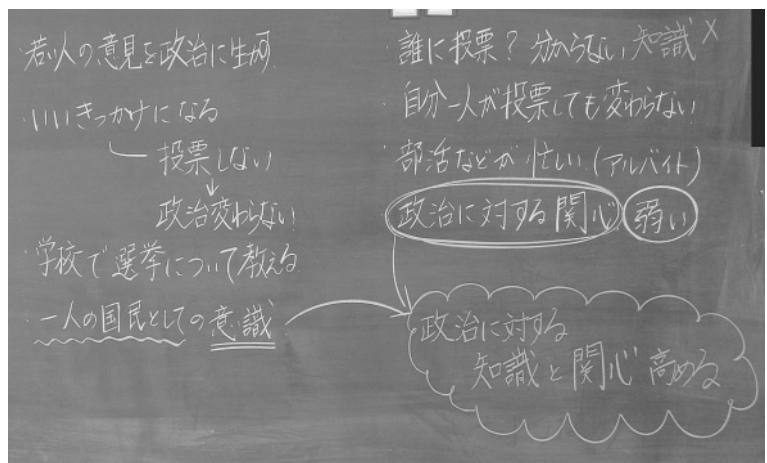
【展 開】

子どもたちは、個別に18歳選挙権の効果による投票率の変化について自分の考えをもった。そして、一人一人が黒板にネームマグネットを貼ることで自分の立場を明確に示し、その理由について交流した。



＜提示した新聞記事と子どもたちが自分の立場として示したネームマグネット＞

投票率が「上がる」と考えた子どもたちは、「若い人の意見を政治に反映できるいいきっかけになるから」「投票しなければ政治は変わらないから」「学校で投票することの大切さを教わるから」などを理由として主張していった。これに対して、「上がらない(変わらない)」と考えた子どもたちは、「誰に投票していかよく分からないから」「政治に関する知識が少ないから」「自分が投票してもしなくても政治が変わると思えないから」などを理由として主張していった。



＜主張を整理した板書＞

それぞれの主張のよさを共有した後、教師は、選挙権を得る10代の思いを聞いた新聞記事を配付した。静かに新聞記事を読みながら、「やっぱり高校生や大学生の人も選挙に行くかどうか決められていないのだな」「行かないと決めている人も多いのだな」などつつぶやく子どもたちが見られた。そこで、教師は、互いの主張を基に考える「選挙権を得るまでに必要なことや大切だと思うこと」について子どもたちに問いかけた。すると、子どもたちは「政治に対する知識や関心を高めることが大切」などを発言した。

それぞれの主張のよさを共有した後、教師は、選挙権を得る10代の思いを聞いた新聞記事を配付した。静かに新聞記事を読みながら、「やっぱり高校生や大学生の人も選挙に行くかどうか決められていないのだな」「行かないと決めている人も多いのだな」などつつぶやく子どもたちが見られた。そこで、教師は、互いの主張を基に考える「選挙権を得るまでに必要なことや大切だと思うこと」について子どもたちに問いかけた。すると、子どもたちは「政治に対する知識や関心を高めることが大切」などを発言した。

【まとめ】

授業の振り返りとして、一人一人が話し合いを基に考えたことを記述し、発表を行った。子どもたちの学習プリントには以下のような記述が見られた。

- 高校生や大学生も選挙にこうと考えている人は、国や政治のことをよく考えていていいと思う。わたしはまだ18歳になるまで6年もあるけれど、政治についてよく勉強して日本のことを任せられる人をちゃんと選べるようになりたい。
- 18歳選挙権になってもやはり若い人の投票率を上げることは難しいと思います。じっさいに自分が投票しても日本の政治はあんまり変わらないと思ってしまいます。でも、話を聞いているうちに、これからはテレビやニュースを見るなど政治に関心もつことが大切だと感じました。

このような姿から、子どもたちは学習の中で友達と話し合ったことを基に、18歳選挙権の効果について自分なりに判断するとともに、政治への関心をもつことの大切さについて考えることができたと思われる。

3 実践の成果と今後の課題

本実践の結果、以下の成果と課題が明らかとなった。

【成果】

- 新聞記事を活用することで自分たちの身のまわりに存在する社会的事象についての興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組む子どもたちの姿が見られた。また、学習内容との関連を明確にし、効果的に新聞記事の提示を行うことで、事象についての理解や自己の考えを深めることにつながった。
- 昨年度の課題であった提示する新聞記事の内容の情報過多や、考えを深めるための活用方法については、記事の内容に赤線を記して焦点化して提示したり、＜展開＞の後半部分で本所の課題に関連する新聞記事を提示することで、記事の内容を的確に捉えたり考えを深めたりする子どもたちの姿が見られた。

【課題】

- 今後も教えるべきことと考えさせるべきことをより明確にして、新聞記事を活用したりする必要があると感じる。また、単元における効果的な新聞の活用について実践を重ねる中で考えていきたい。

社会的事象の見方や考え方を深める工夫

—新聞記事を活用したコンセプトマップの作成を通して—

甘楽町立第二中学校 松浦 雅岳

【実践の概要】

本校は、平成 27 年度から N I E 実践校として指定され、今回初めての取り組みとなった。新聞は、資料室前の廊下に保管・公開しているほか、3 年生 41 人の社会科授業で 1 月に集中的に使用した。時期設定は、3 年生が公民的分野で「私たちと政治」の単元を学び終えたところであり、10 月には生徒会選挙で実物の投票箱を使った「模擬投票」を生徒たちは経験している。今回の授業実践を公民的分野の発展学習として位置付け、生徒の関心が高まっている時期に、学習理解を深めるとともに、新しい選挙制度に対する見方や考え方を深めようと考えた。

授業の手法としては、自分なりの見方や考え方を表現していく「コンセプトマップ」を活用した。1 つの新聞記事を手掛かりとして、時事問題の概要を把握し、基礎事項や関連事項を調べ学習した後、それらに対する事実に基づいた生徒自らの考えや意見を書いたり述べていくようにした。社会的な思考力や判断力、表現力の育成を目指したものである。また副次的に、政治参加への意識を高める効果を期待した。

また、事前調査として、生徒にアンケートを行った。新聞に触れる機会、興味のある記事、学びたい時事問題などを尋ねた。



【新聞の置き場所と整理の方法】

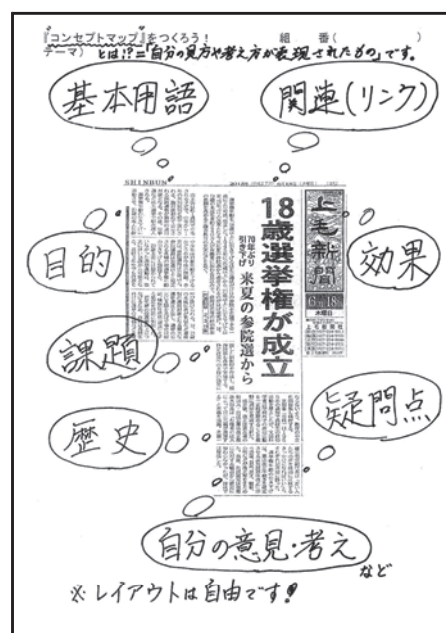
特別な場の設定はできなかったが、新聞は資料室前の廊下に保管して公開できるようにした。9 月からスタートし、前半に 4 社、後半に 3 社を毎日、各社 2 日分を同時に閲覧できるようにし、生徒が日常的に手にできるような配慮をした。設定当初から休み時間や教室移動の合間に、興味深そうに新聞を読む生徒の姿が見られた。

【実践の内容】

① 授業の取り組み

6 月 18 日付上毛新聞の 1 面「18 歳選挙権が成立— 70 年ぶり引き下げ（社会的事象として位置づけ）」を使用した。記事を切り取っておき、A 3 判の紙の中央に貼って、生徒数分を印刷し、一人ひとりに配った。合わせて「コンセプトマップ」作成の視点（資料）とともに、補足資料として、社会科資料集の追加資料で時事問題について解説する紙を配った。生徒は記事や資料の文章から、分からない言葉や疑問点などを抜粋し、書物や辞書、インターネットで調べて書き込んだ。その際 A：目的、B：効果、C：課題を中心的な視点として調べ、最後に自分の見方や考え方を感想や意見として書き込んだ。（コンセプトマップの作成）

最後の 4 時間目には、まとめとして「18 歳選挙権の意義を考えよう」をテーマに授業を行った。記事の文章やこれまでに書き込んだ内容を題材に、A～C を色分けし分類した。個々人で 10 分間で A～C を探しだし、20 分間で班別になって意見をまとめ、班ごとに発表した。



コンセプトマップ作成の視点

生徒は「効果に比べて課題はいっぱい」「すでに政治に悪いイメージしかない」「多くの人の意見が反映される」「政治を知らず、イメージで投票先を選んでしまいそう」「もっと詳しく知りたい」「3年後は投票に行きたい」などと意見や感想を発表していた。

授業の最後には、教師から A～C の代表例を示した。

Aは、「若者の意見を反映した政策を増やす」、「低投票率の改善」、「政治への無関心の解消」

Bは、「社会的責任感を育む」、「政治的な知識や判断力を養う」、「政治参加する自立意識を養う」

Cは、「イメージ先行の政治になってしまう」、「少年法や民法の「成人」とのズレ」、「若者への主権者教育の難しさ」、「学校教育の政治的中立性」、などである。

こうして授業は「政治自体に魅力がなければ、選挙権という受け皿をいくら広げても無意味」という一つの結論に達した。

新聞記事は、一つの記事に一つの事象がまとめられている。それを見出しというタイトルで歯切れよく伝えている。そのため、指導側として、学習にぶれが起きず、活用しやすい媒体であると感じている。また、仮想や想定ではなく、身の回りや社会で起きていることがらが記事の題材になっている。そのため、生徒は斜に構えたり不要と思うことなく、純粋に意欲的になって記事を読み、調べたり考えたりすることが可能になっていると感じられる。

② 指導案

社会科学学習指導案

平成 28 年 1 月 22 日 (金) 第 5 校時 第 3 学年 A 組 指導者 松浦雅岳

〔本時の授業改善の視点〕

一つの新聞記事を手掛かりとして、18歳選挙権のすがたをコンセプトマップにまとめる活動を行ってきたことは、18歳選挙権に対する自分の見方や考え方が深められ、その意義(目的、効果、課題等)を根拠をもって見出すことができるようになるであろう。

*コンセプトマップ(概念地図) = 自分なりの見方や考え方が表現されたもの

1 題材名 「18歳選挙権」とは

2 目標

一つの新聞記事を手掛かりとして、18歳選挙権のすがたをコンセプトマップにまとめる活動を通して、18歳選挙権に対する自分の見方や考え方を深め、根拠をもって自分の意見や考えを書いたり述べたりできる。(追加目標: 政治参加への意識を高めることができる。)

3 校内研修との関わり

本校の校内研修は、各教科や領域等において、「根拠を添えた言語活動」を計画的に設定し、工夫することを通して、本校生徒の思考力や判断力、表現力の育成を目指している。

本題材を、社会科【公民的分野】の「私たちと政治」の発展学習として位置づけた。事前アンケートから、生徒にとって身近に感じている「18歳選挙権」を取り上げた。一つの新聞記事を手掛かりとして、18歳選挙権のすがたをコンセプトマップにまとめる活動を通して、18歳選挙権に対する自分の見方や考え方を深め、根拠をもって自分の意見や考えを書いたり述べたりできるようになると考えた。また、生徒の政治参加への意識を高めることも期待できる。

4 本時の学習 (4/4時間)

(1) ねらい

コンセプトマップにまとめた18歳選挙権に対する自分の見方や考え方をもとにして、その意義を考え、根拠をもって自分の意見や考えを書いたり述べたりできる。

(2) 準備

教師: ホワイトボード(班別記述・発表用)

生徒: コンセプトマップ 資料 筆記用具

(3) 展開

課程	学習活動及び評価項目〔評価方法〕	時間	支援及び留意点
導入	1 本時の学習課題を把握する。(A)	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題を提示する ここでは、「意義」の概念をとらえやすくするため、18歳選挙権の「目的」「効果」「課題」に絞り込む。 活動の手順を確認し、本時の学習の
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 18歳選挙権の意義を考えよう —その目的・効果と課題— </div> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの活動を想起し、本時の活動への意欲をもつ。 		

	「本来の目的は何だったかな」 「どんな効果が期待できるのかな・・・」		見通しをもたせる。
展 開	2 目的、効果、課題に該当する記述を自分の コンセプトマップから探す。(S)～(P) 【言語活動①】 ①その目的は？ ②期待される効果 ③課題点は何だろう 〔観察〕	10 分	・個別(S)、ペア(P)、グループ(G)の順に活動させることにより、知識や考え方の積極的な交流が図れるようにする。 ・消極的な生徒には、教師側から話しかけて学習意欲を高められるようにする。
開	3 自分の見方や考えを出し合いながら、班としての意見をホワイトボードにまとめる。(G) 【言語活動②】 「18歳に下げた目的はズバリこれだよね」 「施行された背景にも触れた方がいいかな」 〔観察・記述内容〕	20 分	・個人や班ごとの見方や考え方でよいことを告げ、自信を持って活動できるように支援する。 ・根拠＝「各自が調べた記述内容(事実)」ととらえ、根拠ということにはあまりこだわらないこととする。
ま と め	4 班の意見を発表する。(A) 【言語活動③】 「18歳選挙権の目的は・・・」 「課題はこの3つです・・・」 〔発表内容〕	15 分	・発表後のホワイトボードを生かしながら、視覚的にも理解しやすいように板書の仕方を工夫し、本題材のまとめとなるようにする。

【学習形態】： A(一斉) G(グループ) P(ペア) S(個別)

ア 言語活動の設定・工夫

本題材を、公民的分野の発展学習として位置づけ、一つの新聞記事を手掛かりとして、18歳選挙権のすがたをコンセプトマップにまとめる活動を行った。18歳選挙権に対する自分の見方や考え方を深め、根拠をもって自分の意見や考えを書いたり述べてりできるようになると考えた。



(言語活動①)



(言語活動②)



(言語活動③)

〔コンセプトマップからの意見や考え〕(抜粋)

私は、選挙権年齢を引き下げただけでは若者の投票数はあまり増えず、若者の意見を政治に反映させることは難しいと考えた。「選挙についてのアンケート」にもあったように、「18歳選挙権」で世の中が変わっている人は全体の約3割だけで、変わらない意見としては「若者の投票率は低い」と「若者は政治に関心がない」という意見が多く、選挙権年齢を引き下げたからといって、若者の投票率が増えるとは思わない。若者に政治に関心をもってもらうためには、そのための政策や措置が必要だと考える。(A子)

イ 成果と課題

【成果】

- ・課題がわかりやすかった。まとめる視点が焦点化されていた。



コンセプトマップ作成例

- 言葉の意味が分かっているかどうか不安に感じる子がいた。
- 時間内に終了するのがベスト。
- 各政党の政策を追究してみるのもよい。

【実践の感想と今後の課題】

今回、単発・集中的な新聞記事の活用となってしまったが、生徒たちの「18歳選挙権」に対する反応はよく、時事的なタイミングも加わって、学習への食いつきは違って見えた。NIE実践の一つの効果といえる。一方、時間的な制約はあるものの、複数の教科での活用や継続的・断続的な新聞記事の活用を図り、生徒の新聞に対する日常的な接触を図っていくことが、本校の今後の課題といえよう。

- 時事的にタイムリーな題材を取り上げていた。
- 教師からの指示が話し方や視覚的にも分かりやすかった。
- コンセプトマップが各自よくまとめられており、有効に使われていた。
- まとめが視覚的にとらえられるように、板書が工夫されていた。
- 批判的な意見や考えを受け入れ、教師の考えもしっかり伝えていた。
- 生徒の主体的な取り組みだった。
- 新聞記事をもとに様々な課題を考えることができた。
- 生徒たちの聞く姿勢・態度がよく、発表の態度は3年生らしいものであった。
- グループ内の役割が自然とできる雰囲気、グループでの話し合いが効果的に行われていた。
- 各班の発表は賛否、中立の意見がありよかった。

【課題】

- ディベート的な意見交換があってもよかったのでは。
- グループによっては意見交換に差が生じていた。
- 自分の意見に自信が持てなかったり、自分の言葉でまとめるのが苦手な生徒がいた。



2月8日付 上毛新聞より (抜粋)

1年から6年まで学校全体で取り組むNIE活動

桐生市立川内小学校 NIE推進委員会

1 実践の概要

「NIE 活動実践校」の指定を受けた本校では、今年から全校で活動に取り組むこととなった。まず、実践に当たって、全職員で共通理解を図るため NIE 活動全般について校内研修の一環として活動を開始した。さらに、本活動を進めるにあたり、児童が新聞に対してどのような意識を持っているかを把握するため、各クラスで聞き取り・アンケート等を実施した。結果、低学年特に、1年生は新聞に対しての意識も薄く、定期購読している家庭も驚くほど少なく、新聞自体に接することがあまりないということが分かった。そこで、本校では各学年での発達を考慮しながら、新聞に親しむ→新聞を作る→新聞の活用・応用 という段階を追って本活動を進めていくこととした。

2 各学年の取り組み

段階	学年	教科等	内 容
親しむ	1年	学活	○新聞を使ったゲームや活動を実施し、新聞を実際に見て、触れて、身近な物であることを理解させ、少しでも親しめるようにする。
	2年	総合	○町探検に行った壁新聞を作って発表し合う。
作る	3年	学級活動	○朝の会、帰りの会等で新聞やネットのニュースの中から気になった記事を見つけ発表する。
		総合	○「川内の生き物大すき」の単元で、学習したことを新聞にまとめて発表し合う。
活用する	4年	総合 国語	○校外学習新聞を作ろう。 ○「新聞でニュースを伝える」の単元で、伝えたいことの情報を集め、その情報をもとに様子が伝わる組み立てを工夫し、記事を書き、互いに読み合う。
	5年	総合 国語	○宿泊学習新聞を作ろう。 ○子ども新聞を配布して、読む・感想を書く活動を続けた。
応用する		社会	○ TPP の概要説明と進捗状況について新聞を使って学習する。
	6年	総合 国語 理科 社会	○修学旅行 鎌倉の概要説明時に新聞を利用した。 ○新聞から気になるニュースを選び、その記事についてスピーチ原稿を考え、発表する。 ○ノーベル賞受賞についての新聞記事を授業の導入に使用して調べ学習につなげた。 ○上野国 国分寺の発掘について新聞を使って調べた。
周知・活用	広報委員会 保健委員会		○「川内小新聞」を作成し、新任の先生の紹介や5、6年生の修学旅行、宿泊学習等についての特集を組み全校児童に配布した。 ○アウトプット運動など委員会を中心に実施している活動

	図書室	<p>について保健委員会新聞を作成した。また、その結果を学校保健委員会、児童集会等で発表した。</p> <p>○子ども新聞等のコーナーを作ったほか、図書委員が図書新聞を発行して新刊書等を紹介した。</p>
	職員室	<p>○新聞コーナーを設置した。</p> <p>○「職員室のNIE」の発行。</p>

○1年生の実践～新聞紙に慣れ親しむ活動～

▽「家で新聞をとっているか」を聞いてみたところ各クラスで6, 7人だった。この結果は、1年生の親世代の30代～40代の新聞購読率30～40%（日本新聞協会の調査 YahooJapanのHPからによる）という数字にも当てはまる。中には新聞の存在すらよく分かっていない児童もいた。そこで、1年生では、まず、新聞に慣れ親しむことができるよう活動を実施した。さらに、新聞が毎日配達されることや新聞にはテレビ欄や子どもの欄があること、1年生でも読めるところがあることなど認識させるため、常時教室に新聞を置いておくようにした。

- ・新聞の中から、カタカナを探そう。
- ・新聞を裂いて、誰が一番長いひもを作れるか競争しよう。
- ・新聞とガムテープを使い、新聞紙タワーをつくろう。
- ・新聞紙を広げて、何人乗れるか挑戦しよう。
- ・新聞紙じゃんけんをしよう。（新聞の上に班のメンバーが乗っていて、じゃんけんで負けたら新聞を小さくしていく。全員が落ちたら負け。）



1年・しんぶんであそぼう



新聞の中から、カタカナを探そう



新聞紙に何人乗れるか挑戦



新聞紙タワーをつくろう



新聞紙じゃんけん

○2年生の実践～初めての壁新聞作り～

▽初めての壁新聞作りに挑戦した。各グループでテーマを決め、町探検に行つて印象に残ったことや初めて知ったことを各自が紙に書きだし、それを模造紙に工夫して貼った。余白に折り紙を貼ったり紙を切って貼り付けたりした。また、クイズ形式にして答えを隠しておいたりしてグループの独自性を出し、ユニークな壁新聞を作り上げた。できあがった壁新聞を基にしてグルン

発表を実施し、できあがった新聞は掲示コーナーを作って全校児童が閲覧できるようにした。

○3年生の実践～個人で壁新聞作りに挑戦～

▽本校は自然に恵まれた地域で、里山も川も学校近くにある。特に渡良瀬川に注ぐ支流がいくつもあり、初夏にはホタルが飛び交う。そこでホタルを育てている地元の方のところに行き、直接話を聞いたりホタルの幼虫を見せてもらったりした。さらに、実際に川の中に入って川の中の生き物を採って調べたりした。その感動が薄れないうちに各個人で印象に残ったことを新聞にまとめた。2年生の壁新聞作りをさらに発展させ、グループから個人での作成、各個人で割り付けをするなど、実際に新聞を見ながら「見やすい新聞、読みやすい新聞」の作成を目指した。作成した新聞は掲示コーナーに掲示した。

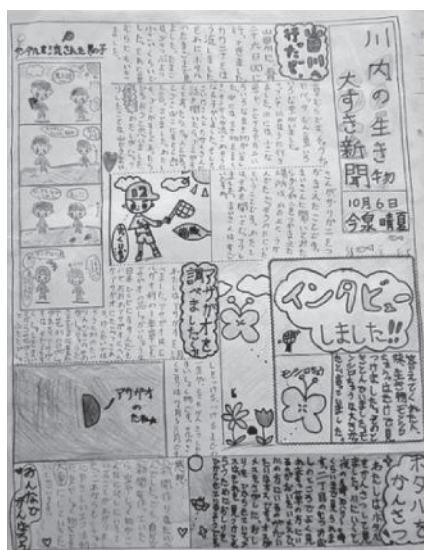
○6年生の実践

▽単元名「生物と地球環境」(大日本図書)

6年・理科の生物分野では「植物の成長と日光の関わり」→「体のつくりとはたらき」→「植物の成長と水の関わり」→「生物どうしの関わり」→「生物と地球環境」というように体系的に様々な生物が深く関わり合っていることやそれらが人間の活動とも連携していることを学習する。特に、6年最後の理科の単元では総合的な観点から人間と地球環境全体について考えるような構成となっている。この単元では、新聞を用いて2015年のノーベル生理学・医学賞受賞の大村教授の研究を調べ学習の導入とした。児童は、非常に興味関心を持ち、虫・人間・土壌の中の菌まで繋がっていて地球を構成しているということに新たな自然への畏敬と教授の発見に対するすばらしさを感じていた。



2年・町探検新聞



3年・生き物大好き新聞



4年・校外学習新聞

○職員室の実践

▽職員一人一人に NIE を認識してもらうため、職員室の傍らに NIE コーナーを作り、寄贈新聞において空き時間や放課後に誰でも気軽に新聞を手にとることができるようにし、職員各自の意識の高揚を図った。さらに、学校長が自ら「教員として読んでおくことが必要な記事」をピックアップし、「職員室のNIE」を発行した。



6年・修学旅行新聞



職員室・NIE コーナー



職員室のNIE

3 今後の課題

本校でのNIEの取り組みは始まったばかりである。1年を経過して教職員各自のNIEへの意識が確実に高まっている。このNIEの指定を受ける以前も各学年で「新聞作り」や「新聞を意識した授業」等を実施してきたが、それを体系づけ学校全体で取り組む姿勢ができてきた。また、校内研修中の表現の実践の一つとして位置づけ取り組んでいる。さらに、本市を含む両毛5市で実施している「五地区学校新聞コンクール」への参加も昨年に比べて倍以上の応募があり、入選作品も多くなった。これは教職員だけでなく、児童の意識も変わりつつあるということだと思ふ。校内にも新聞掲示コーナーを設置したり、児童が作った新聞の掲示を積極的に実施したりしている。

来年度はこうした校内での機運の高まりを更に促し、積極的に授業の中でNIEを取り上げ、活用していくようにしたい。



5年学習コーナー新聞掲示
(学習に関連したことを児童が選んで
掲示している)



「五地区学校新聞コンクール」入選掲示コーナー

世の中の動きに関心を持ち、社会の一員としての 自覚を高め、多面的に物事を考えられる人になろう

沼田市立沼田南中学校 教諭

高橋千賀子

古田島 茂

阿部 忠博

森 峯子

1. テーマ設定の理由

NIE実践校1年目の前年度は、まず、新聞を読むこと、感想を交流し合うこと、投稿すること等を通して新聞に慣れ親しむことから始めた。生徒玄関ホールに新聞を掲示したり、並べたり、授業で使ったりすることを通して多くの生徒が「新聞に慣れる」ようになった。

2年目の今年度は、前年度のテーマに加えて、「世の中の動きに関心を持つ生徒の育成」も目指した。選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられ、生徒は高校在学時に投票の機会が与えられる。そのような現実に対して、中学生のうちから「世の中の動きに関心を持つ」気持ちと、そうする習慣を身に付けさせることは大切なことだと考えた。

兄弟姉妹の数が少なくなっている。昔なら当たり前のようにあった兄弟げんかはほとんど無い。保護者も忙しく、家庭において意見を交わす機会が少ないため、生徒たちは、信頼できる者と討論することが少なく、自分の意見の不完全さを指摘されたり否定されたりすることに慣れていない。家庭においては、自分の考えを押し通して、周りの大人に聞き入れてもらう生徒さえいる。世の中にはいろいろな人がいて、さまざまな考えがあり、互いに協議し合い、理解し合うことによって、よりよい意見になることを分かせたい。新聞を利用することにより、さまざまな意見を知り、多面的・多角的に物事を考えられる人になってほしいと考えた。以上のことから、このテーマを設定した。

2. 実践の内容

【国語科 : 第1学年授業実践】

(1) 題材名 せりふとト書き

(2) 本時の学習

①ねらい 書いた文章を読み合い、題材の捉え方について感想を話し合う。

②準備 ・「上毛新聞」四コマ漫画のコピー8日分 (3コマ目または4コマ目のせりふを消したもの) ・プリント (劇の台本)

③ゲストティーチャーとして、上毛新聞社沼田支局の記者

(3) 展開

学 習 活 動	時 間	支援・指導上の留意点	評価項目
1 本時のねらいをつかむ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを板書する。 ・「せりふ」は話し言葉で書かれ、「ト書き」は書き言葉で書かれることを理解させる。 ・桃太郎の話を劇の台本のように作ったプリントを使って説明する。 	【観点】(方法) 絵についてさまざまに発想して、意外性や転換のおもしろさのあるせりふやト書きを工夫して書いている
2 「せりふ」と「ト書き」について理解する。			
3 四コマ漫画の面白さを理解する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・起承転結の「結」の落ちの面白さに気づかせる。 ・生徒が面白いと感じ、分かりやすい四コマ漫画を8種類用意して、好きな作品を選ばせ「転」または「結」のせりふやト書きを書かせる。 	
4 「上毛新聞」の四コマ漫画を利用して、空欄に入るせりふを考える。			

5 できた作品を友達と交換して、読み合う。	10分	<ul style="list-style-type: none"> 早くできた生徒は、他の作品のせりふやト書きを考えさせる。 面白いところ、なぜこのせりふにしたのか等の意見を交換し合う。
6 よい作品を鑑賞する。		
7 新聞記者から取材や記事執筆の工夫や苦勞などの話を聞く。質問する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> 記者の来校を前日に伝えておき、質問や新聞を読んだ感想を考えさせておく。 分かったことや今後の新聞の読み方に活かそうとする心構えを持てるような振り返りをさせる。
8 本時の学習を振り返る		

(4) 授業のまとめ

- ① 教科書に載っている四コマ漫画の面白さを、生徒は理解できない。(父親のせりふ「ぬれねずみ」の落ちが、中学一年生にとっては難しい。) ぬれねずみの意味を説明して落ちを説明すると、落ちが落ちでなくなってしまう。だが、新聞の四コマ漫画はその時期の風物や世の中の流れを題材にしているため、生徒が理解しやすいという利点がある。
- ② 授業で四コマ漫画を使った後、授業以外では新聞を手にとることがなかった生徒が廊下の新聞入れから新聞を取り出して四コマ漫画を読んでいる姿が何度も見られた。少しずつでも新聞に親しめるようになっている。
- ③ 8日分の四コマ漫画をプリントして好きな(やりやすそうな)作品を選ばせたことにより、手を付けられない生徒がいなかった。
- ④ 新聞記者の話の一部(生徒の質問の答えも含む)
 - a 「新聞は難しい。分かりづらい。取っつきにくい。」と考えている人は、まず写真から入る。写真を見るだけでも、世の中で起きていることがだいたい分かる。私(記者)は、この1枚の写真を撮るために半日かける場合もある。そんな苦勞の末の1枚だったりするので、写真も是非見てほしい。
 - b 取材に行くときは、場所に合わせて、長靴や雨合羽などを用意していく。しかし、慣れていない場所では泥沼にはまって身動きとれなくなったり、思いがけない渋滞に巻き込まれて予定時刻ぎりぎりになってしまったりしたことがあった。約束の時刻があるときは、渋滞を予測して早めに行くように心がけている。
- ⑤ 生徒は現役の新聞記者のお話を目を輝かせて聴いていた。生徒達にとって無機物だった「新聞」が有機物に変わっていく感じが感じられた。

【国語科 第2学年授業実践】

(1) 題材名 マイナンバーについて知ろう

(2) 本時の学習

- ①ねらい 新聞記事からマイナンバーについての必要な知識を読み取る。
- ②準備 マイナンバーについての新聞記事をプリントしたもの
- ③ゲストティーチャーとして、毎日新聞社沼田支局の記者

(3) 展開

学 習 活 動	時間	支援・指導上の留意点	評価項目
1 本時のねらいをつかむ	3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいを板書する。 「マイナンバー」に関する事なら、どんなことでもよいことを話す。 	【観点】(方法)
2 「マイナンバー」について知っていること、知			

3 「マイナンバー」についての新聞記事を読む。 4 「マイナンバー」について分かったことを発表する。	20分	・知らなかったこと、知りたかったことに赤ペンで傍線を引かせる。 ・誤解している部分や不十分な点は教師が補足する 【 予想される生徒の反応 】 ・大人だけだと思っていたが、赤ちゃんからマイナンバーが交付されると知った。 ・交付されるのは紙のカードで、しっかりしたカードは申し込まないともらえない。 ・マイナンバーは、一生変わらない。 ・マイナンバーで住民票などの交付申請ができる。 ・マイナンバーは、書留郵便で届けられる。期間内に受け取らないと市役所に戻される。 ・マイナンバー交付はお金がかからない。 ・なるべく漢字を使わせる。	おおむね満足 ・マイナンバーについて2つのことが分かる。 充分満足 ・マイナンバーについて3つ以上分かる。
5 学んだことを書く。	7分		
6 毎日新聞社の記者のお話を聞く。	18分	・事前打ち合わせをしておき、取材・記事を書く時に留意していることを話してもらう。	
7 振り返りをする	2分	・新聞の良さをを読むと、こんなことも分かるということをお話してもらう。	

(4) 授業のまとめ

毎日新聞社の記者のお話

- ・「取材をするときには、加害者であっても、公平に客観的に正確に聞き取って記事にするように心がけている。」という内容で、具体的なお話を聞いた。生徒は、一方的に決めつけることの恐ろしさと、新聞記事の奥深さを感じたことをまとめて書いていた。
- ・記事の最後に記事を書いた記者の氏名を書いている。これは、記事に責任を持つということである。自分が書いたものは責任を持つことの大切さを学んだ。

【総合的な学習 第2学年授業実践】

- 職場体験学習のまとめを新聞にして発表した。新聞の作成に慣れてきたのか手際よく、見やすい新聞を作ることができた。

【社会科 第2学年授業実践】

真田氏について調べたことを新聞にして発表した。文章だけでなく、写真や絵を取り入れて分かりやすい新聞づくりができた。

【社会科 第3学年授業実践】

- (1) 目標 検察側・被告人側双方の主張をもとに判決を考え、裁判員制度の意義についてまとめることができる。
- (2) 準備 生徒 ワークシート 教師 ワークシート、テレビ、パソコン、新聞記事
- (3) 展開

学習過程	時間	学習活動	支援及び指導上の留意点 (◎) (○)	評価項目と方法
つかむ	10分	1. 新聞記事を見る。	○裁判員裁判の新聞記事を見て、関心を高めさせる。	
		2. 課題をつかむ。	○課題をワークシートに書かせ確認する。 ○本時の学習について見通しをもたせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 課題『裁判員制度の意義について考える』 ～放火事件の判決について考えよう～ </div>				
追究		3. 個人で判決を考える。	◎ビデオをみながら双方の主張をメモさせる。 ◎1日目の審理が終わったところで、書けた生徒	

する	17分	ビデオ(7分) 1日目 ビデオ(3分) 2日目	に発表させ、全体で確認する。	
			検察側 住宅に放火	被告人側 計画性はない
----- 中 略 -----				
まとめる・たかめる	10分	5. 判決を確認しよう。 6. 個人で振り返りをしよう。	◎ビデオで事件の判決を確認させる。 ○ワークシートに振り返りを書かせる。 ○裁判員制度の意義や今日の授業の感想などをまとめさせる。	

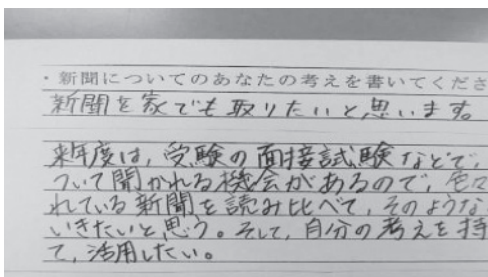
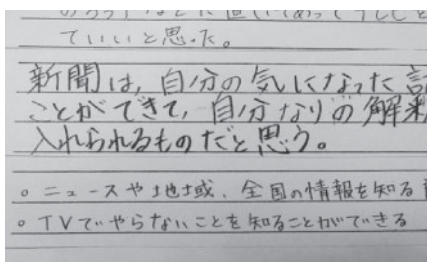
3. 実践の感想

【成果】

① 興味関心を持たせること

教師も生徒も毎日多忙である。朝、新聞を読んで登校する生徒は少ない。そこで、生徒に読んでもらいたい記事を赤枠で囲んで生徒玄関に掲示しておいた。そうすることによって、生徒が休み時間に新聞を手にとって読むきっかけを作ることができた。

3年生の社会科の授業後に書いた意見文がさまざまな新聞に載った。このことにより、書いた生徒はもちろんのこと他の生徒も三面記事とテレビ版以外に意見欄までよく読むようになった。



② 継続活用

家庭では、新聞は1ヶ月くらいで資源ゴミに出してしまうことが多い。だが、学校では1年間保管しておくことによって、調べ学習の時に数ヶ月前の記事について調べることができた。

【前年度からの改善点】

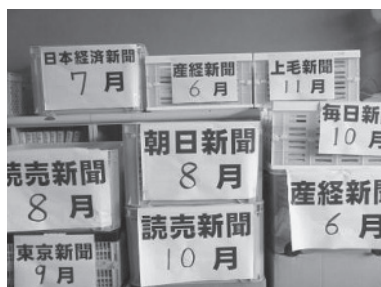
① お忙しい中、申し訳ないと思いながらも、新聞社の方に何度も来校していただいた。現職の新聞記者のお話を聞くことは職業学習にもつながり、生徒は働くことの楽しさを感じ取っていた。

② 配達計画の見直し

1年目は新聞を4ヶ月間、7紙ずつ配達していただいた。そのため、学校でとっている新聞以外は、新聞が全く配達されない月があったが、今年度は配達計画を見直した。毎月必ず何紙かは配達してもらえるように計画した。

③ 保管の仕方

1年目は1ヶ月ごとに何種類かの新聞を同じ箱に入れて保管した。そのため、



☆☆新聞の○月とか、◇◇新聞の△月を見たいという時に、探すことが大変だった。また、返却した後が雑になってしまった。今年度は、新聞社ごと、月ごとに保管したため、利用と返却がしやすくなった。

2016年7月30日発行

2015（平成27）年度

群馬県N I E実践報告書

編 集 群馬県N I E推進協議会事務局
発行者 群馬県N I E推進協議会
事務局 〒371-8666 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社内
電話 027-254-9923
